

1 葛西臨海水族園のあるべき姿について 【説明資料 1 p 2】

	ご意見・指摘事項	補足等
(1)	ミッションの視点 ミッションの柱として考えるべき視点 ・地球規模の海洋 ・人間の暮らしにつながる概念 (里山、里海)	○グローバル、ローカルは現在も目指している姿であり、足りないものを強化することを考えるべき。柱として考えるべき視点を入れるべきである。
(2)	ミッション① 表現 海に限定せず、川や水も含めた表現とすべき	○水圏や水界（ともに、地球の水の構成をさす概念）という表現がある。
(3)	ビジョンの構成 ビジョンに目的と手段が混在 (下記にご提案いただいた構成を掲載)	○「・・・を目指す」があり、「・・・そのために・・・に取り組みます」としたほうがよいのではないか。 ○より重要と考えられるものを先に述べるほうがよい。
(4)	ビジョンの構成 ビジョン → パーパス としてはどうか	○SDGs 以降、パーパスが主流。 Vision: 将来の構想、展望 Purpose: 目的、意図、決意、効果
(5)	ビジョンの視点 視点（入口）が狭い	○海の多面的な楽しみ、ワクワク感をかき立てるような視点が必要。海洋や魚に関心のない人たちに来園してもらう工夫が必要。
(6)	ビジョンの視点 SDGs への貢献を明記すべき	
(7)	ビジョン② 表現 海洋環境の持続可能な利用が人間の生活にどう影響するのか、というニュアンスを入れたい	
(8)	ビジョン④ 表現 五感 → 所感、感性 と言い換えるべき	○ユニバーサルデザインの視点から適切な表現を選択する必要。
(9)	ビジョン⑥ 表現 葛西にとっての海洋環境保全を示すべき	○海洋環境保全は、陸域から水域まで全てを包含する考え方であり、意図を明確にしておくべきである。
(10)	ビジョン⑧ 表現 海を展示するという発想が弱い	

<ご提案いただいたビジョンの構成>

目指すもの

- ・海洋環境と豊かな生物多様性の持続可能な管理と活用を通じて「持続可能な開発目標」の実現に貢献する
- ・ひとりひとりのライフスタイルが海洋環境の持続可能性に貢献するものへと転換することを促す
- ・海との結びつきが強い葛西や東京の歴史や文化を次世代に継承し、人と海とのつながりを深める

そのために以下に取り組みます

- ・海の生き物や生態系を理解するための教育活動
- ・東京のそして世界の自然環境や希少種の保全
- ・海の生態系と海中景観をありのままに再現し、本物の生きものや海洋環境を身近に体感できる場を提供
- ・国内外からの来園者にとっての魅力となる特別な時間を提供し、交流を促し、五感を刺激する

2 4つの機能について 【説明資料1 p3】

	ご意見・指摘事項	補足等
(1)	教育の構成 教育 → エデュケーション、 学び 等としてはどうか	○エデュケーション本来の意味を考えるべきである。個性を開く、引き出す、インスピレーションの場であることが伝わる表現に変えてはどうか。
(2)	教育の視点 海をめぐる情報提供、発信の拠点になってほしい	○葛西で学び、そこから別の体験の場に向かう拠点としての機能が備わるとよい。 ○環境に優しい生活をすることを発信。
(3)	教育の視点 大人の役割が大切	○子どもに責任の重さを教えるのは大人の役割である。手軽さ、利便性のマイナス面は大人が教えなければいけない。
(4)	教育の視点 体験が重要	○何事も、体験を通じて学ぶことが重要。 ○体験しなければ分からないことが多いが、おろそかにされがちである。

	ご意見・指摘事項	補足等
(5)	教育④ 表現 ①洗練より、柔軟な、先進的な、 といったニュアンスが合う ②興味深い、どこにもない、こ こでしか観られない、という 表現がよい	
(6)	レクリエーション③ 表現 知的な体験より、刺激を与える という表現がよい	
(7)	調査・研究の構成 調査・研究は全ての基盤であり 別枠で整理すべき	○4つの機能という捉え方を見直すべきである。
(8)	調査・研究の視点 研究費がつく組織体に行けるの が理想的	○片手間でなく、必要な研究・発表に取り組める組織となれば、働き手の意識も変わる。
(9)	各機能の関係性 レクリエーションは入口、教育 は手段、調査・研究は飼育手法 や運営を含めたベース	
(10)	カ点の置き方の構成 優劣をつけると捉えられるた め、整理の仕方を変え、来園者 の視点での関係性を整理すべき	
(11)	カ点の置き方の視点 調査・研究がしっかりできるこ とが重要	○表面に見える展示は、調査・研究の氷山の 一角でしかないことを認識してもらうこと が大切。

3 展示・飼育について 【説明資料1 p5】

	ご意見・指摘事項	補足等
(1)	展示キーワードの構成 展示キーワードを基本と個別に大別すべき	○全ての展示に共通する基本キーワード（海洋環境、生物多様性等）と個々の展示で効果的に実現する個別キーワードが混在している。
(2)	展示キーワード 表現 つながり →海と人とのつながり としてはどうか	○意味が広すぎるため言い換える。
(3)	展示キーワード 表現 癒し →創造性 としてはどうか	○意味が広すぎるため言い換える。
(4)	展示キーワード 表現 独創性、景観	○魅力は独創性、風景は景観というキーワードに整理してはどうか。
(5)	展示コンセプトの視点 展示コンセプトの捉え方を見直す必要がある	○現在は図鑑になっている。海洋環境やつながりを伝える方法を検討すべき。 ○光と影の両面が必要。
(6)	展示の視点 興味→気づき→理解→行動につながるような展示を考える必要	○海の景観だけでなく、その他のものとの関連があるとよい。
(7)	展示の視点 深海等、今までやってきたところを強化、整理してはどうか	
(8)	展示の視点 教育の観点から、東京の溪流、田んぼ、水辺の展示が分かりやすい	
(9)	展示の視点 起承転結があると楽しめる	○単に水槽を羅列するのではなく、起承転結がある空間づくりを検討すべき。
(10)	飼育の視点 飼育展示は水族館特有の調査研究で、重要なことである	
(11)	飼育の視点 環境に対する科学的研究の重要性を理解してもらう必要	○水や空気を適切な環境に維持することの重要性があまり認識されていないが、しっかり取り組むべき研究課題である。

4 運営に関する方針について 【説明資料1 p6】

	ご意見・指摘事項	補足等
(1)	構成 「ファンの増やし方」「広報・連携のしかた」を、 「ファンの増やし方・広報」と 「連携のしかた」に修正	○広報は、知らせるための手段だけでなく、 いかにファンを増やすかといったターゲット設定等の戦略も含んだ概念である。
(2)	サービスの提供方法① 表現 展示、プログラム開発ではなく ネットツールの活用等、外部への発信方法を記載すべき	○来ないと分からないでは意味がない。
(3)	ファンの増やし方 視点 集客の仕組みを構築する必要	○注目されないと経営は上手くいかない。売り込み、軌道に乗るまでは一定の時間も必要。
(4)	ファンの増やし方 視点 地元を受け入れられる施設であることが大切	
(5)	ファンの増やし方 視点 現地とリアルタイムでつながる 仕組みの構築 ※ファンの増やし方⑤ 水族館周囲だけでなく、東京や世界中の海の資源も活かせる	○ダイバーから現地写真を送信してもらう等 世界中の現在の海の状況がリアルタイムで分かる仕組みができるとよい。 ○収集の仕方によっては、生息状況のデータベースにも活用できる。
(6)	ファンの増やし方③ 視点 新たな名称を考えるべき	○ネーミングの検討は必要。(海洋を強調する等)
(7)	広報・連携 視点 広報はターゲット設定が必須	○ターゲットを明確にし、ターゲットが反応するような呼びかけをするものである。
(8)	広報・連携② 視点 企業連携はCSRが重視されることを念頭に置くべき	
(9)	経営の観点③ 視点 コンセプトが料金体系にもつながるべき	
(10)	経営の観点⑥ ボランティアを有償にすることも検討されるべき	○質を下げず、継続的に関わってもらうため、 いくらかでも支払うことが大切。(海外のボランティアを参考に検討)

5 求められる施設性能について 【説明資料1 p 7】

	ご意見・指摘事項	補足等
(1)	使いやすく魅力的な施設 視点 テーマにあった観覧ルートがあるとよい	
(2)	使いやすく魅力的な施設 視点 危機管理対応がしっかり出来ていることの可視化が重要	○教育を重視するならなおのこと、危機管理対応がしっかりとれている施設であると、目に見える形で示す必要がある。
(3)	使いやすく魅力的な施設① 表現 バリアフリー → アクセシビリティやユニバーサルデザインとすべき	○誰もが、という視点でみるとバリアフリーは古い表現ではないか。
(4)	使いやすく魅力的な施設⑥ 視点 水槽をみながら食事ができるレストランがあるとよい	
(5)	環境負荷の軽減④ 視点 自然にやさしいエコなもの、というニュアンスがほしい	

6 その他について 【説明資料1 p 8】

	ご意見・指摘事項	補足等
(1)	周辺施設等との連携 視点 ランドスケープを活用すべき	○本物の海辺に下りられる、そこの生物に触れられる、という地の利を活かす。 ○インスタ映えする場所を選定、提示することも一案。
(2)	周辺施設等との連携① 視点 アクセスに対応したアプローチ方法を検討すべき	○起点をどこにするか（成田、羽田、東京等）でアプローチの仕方は異なる。